

# 窓辺

チーム医療

みやち よしき  
宮地 良樹



いまの医療は医師だけでは何一つ成り立ちません。看護師、薬剤師、理学療法士、管理栄養士などの多彩な医療専門職がそれぞれの専門性を発揮して、患者さんのために一丸となって立ち向かわないと良い結果につながりません。それがチーム医療の神髄です。

私がチーム医療の重要性を痛感したのは、床ずれ(褥瘡)に遭遇した30年ほど前のことでした。当時、褥瘡は「看護の恥」と言われ、看護師による予防のみが叫ばれ多くの医療従事者は無関心でした。私は褥瘡治療薬の創薬からこの領域に飛び込みましたが、褥瘡は皮膚科的な局所治療だけでなく、体圧分散やリスク評価、創面・栄養管理なしにはどうしても治せないことを思い知りました。その際、医師以外の医療職の専門性をリスペクトして、お互いのスキルを活かすチーム医療の重要性を学んだのです。

ドの頂点には医師がいて、その他の医療職は補助的な「コメディカル」と呼ばれていましたが、全ての医療専門職はフラットな関係であるべきことに気づき、それ以来、大病院の教授の時も市中病院の病院長の時も、私は「コメディカル」ということばを使いませんでした。いま静岡社会健康医学大学院大には多職種の社会人大学院生が一つの学び舎に集い、勉学と研究に励んでいます。ぜひチーム医療の考え方を生かして、これからの医療展開を考えていきたいと念じています。

静岡社会健康医学  
大学院 大学長